

第6学年2組 特別活動学習指導案

平成30年9月27日(木) 5校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 八子 正彦

会場 6年2組教室

1 題材名

自然教室からつなげよう ～学年イベント大作戦～

2 本題材の価値

本題材は、次の新学習指導要領第6章の第2の〔学級活動〕の2「内容」を受けて設定したものである。

- | |
|---|
| <p>(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。</p> <p>(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成
学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとすること。</p> |
|---|

6年生の子どもたちは、立山自然体験教室(以下、自然教室)を通して、学年として一つの行事に取り組むことで、よりよい人間関係を築く集団生活の在り方について学んだ。事後アンケートの結果、「学年として協力し合うことの大切さが分かったので、また6年生全員で取り組む活動を行いたい」「今度は、自分たちのためだけでなく、学校や下級生のためになる活動もしてみたい」という意見が多いことが分かった。そこで、「6年生みんなで協力して、全校の絆を深めるイベントをしよう」という共通の目的をもち、学年イベントに取り組むことにした。

従来の指導においても、学校行事に取り組む際に、6年生としての目標や行動の仕方については考えさせてきた。しかし、学校行事を終えると全てが完結した気になってしまい、子どもが次の目標を明確に見いだせないまま日常生活を送る様子が見られた。これは、教師が学校行事や活動単発での目的を設定させていたことが原因である。

本題材は、自然教室での成果や課題を振り返らせ、次の活動を行う共通の目的をもたせることから始める。子どもは、自然教室で学んだ学年として取り組む意義やよりよい人間関係形成の在り方について考えたことに気付き、それを次に生かしたいと意欲をもつ。さらに、「6年生としてどうしたいか」という視点をもたせることで、学級のみならず学校生活にまで目を向けて話し合わせ、最高学年としての意思決定を促すことができる。

また、本題材で子どもが話し合う内容は、主に「イベントのブースを回るときに、より全校の絆が深まる回り方は自由かなかよし班か」である。この内容について話し合うことで、6年生として下級生の希望や願いを受け止めて、よりよい解決策を考え出す必要感が高まる。

本題材は学年で取り組むことから、話し合ったことがそのまま学年の決定事項にはならず、学級の意見として吸い上げられる。そのため、話し合ったことと実践とが必ずしも直接結びつかないことがある。しかし、よりよい学校生活について、まずは学級単位での話し合いを重ねさせることで、最高学年としての自覚を高めたい。それが、学年全体で一人一人が学校生活について自分事としてとらえ、話し合う姿につながる。

以上が、本題材の価値がある。

※ 「なかよし班」とは、各学年1名ずつで構成される小集団のことである。

3 本題材で目指す姿

共通の目的をもった他者の経験から来る思いに共感し、折り合う決定方法を考える子ども

具体的には、解決策の根拠となる他者の経験に着目し、自分と異なる解決策のよさを理解して決める「見方・考え方」を働かせ、解決策と理由の違いや多様性を認めて合意形成を図るという資質・能力を発揮して、「多数決で決めるべきだと思う。元々好きな人と遊べる「自由に回る」だったけど、これからの学校のことを考えると、もっとなかよし班で仲良くなることも大切だということが分かった。つまり、どちらにもちゃんとよさがあるから、多数決でよい。どちらになったとしてもお客さんにはルールをしっかりと説明して、友達と絆を深めてもらいたい」などと課題解決する子ども

4 本題材で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

5 指導計画 全5時間

単元カード参照

6 指導の構想

子どもは、学年イベントについて、ブースを回るときに「自由に回る」「なかよし班で回る」のどちらの解決策がよいかとその理由をワークシートに記入した。子どもは、それぞれの特性である長所・短所には気付いているが、解決策に対する思いまでは気付いていない（C0）。これまでの学級の目標や組織づくりについての話し合いにより、子どもは意見の違いや多様性を認めて合意形成を図る力（②思考力・判断力・表現力）を発揮・自覚してきている。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

「自由に回る」「なかよし班で回る」についての短所を提示して、みんなが納得できそうかとその理由とを問う。

解決策の短所だけを述べ合っても納得できないことを実感させるための働き掛けである。

「自由に回る」と「なかよし班で回る」について、子どもが考えた経験を基にした短所を提示して、みんなが納得できそうかを問う。子どもは、納得できないと考える。そのような子どもに、理由を問う。子どもは、**解決策の根拠となる他者の経験に着目し、自分と異なる解決策のよさを理解して決める「見方・考え方」**を働かせ、短所やそれにつながる経験だけを出し合っても、その解決策で目的を達成できるかが明らかにならず、納得できないと考える。

働き掛け2

「自由に回る」「なかよし班で回る」について、どのように話し合いを進めればみんなが納得できそうなのかを問う。

課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

どのように話し合いを進めればみんなが納得できそうなのかを問う。子どもは、長所やその基になる経験を出し合っただけでは納得できそうだと考える。そのような子どもに、理由を問い返して尋ねる。子どもは、**解決策の根拠となる他者の経験に着目し、自分と異なる解決策のよさを理解して決める「見方・考え方」**を働かせ、それぞれの解決策のよさが分かれば、目的が達成できそうかが明らかになり、どちらに決まっても納得できそうだと課題解決の見通しをもつ。

働き掛け3

「自由に回る」「なかよし班で回る」のうち、目的を達成できそうな解決策とその理由とを問う。

それぞれの解決策の思いを考えさせ、共感させるための働き掛けである。

「自由に回る」と「なかよし班で回る」のうち、目的が達成できそうな解決策とその理由とを問う。その際、教師は子どもが経験を根拠に理由を述べることができるよう、司会や全体に促す。「仲の良い人と回れる」「一人ぼっちの人が出ない」等の解決策の特性だけでなく、経験を出し合わせることで思いを表出させるためである。子どもは、どちらの解決策の立場の人も納得するための知識を発揮し（①知識・技能）、長所につながる経験を根拠に「6年生みんなで協力して、全校の絆を深めるイベントをしよう」という目的を達成するための解決策を考え、発表し合う。

働き掛け4

話し合いの決定方法とその理由とを問う。

話し合ったことを基に、課題解決させるための働き掛けである。

話し合いの決定方法を問う。共感したことを基に、お互いに納得できる決定方法を考えさせるためである。子どもは、「多数決で決めるべきだと思う。元々好きな人と遊べる「自由に回る」だったけど、これからの学校のことを考えると、もっとなかよし班で仲良くなることも大切だということが分かった。つまり、どちらにもちゃんとよさがあるから、多数決でよい。どちらになってもお客さんにはルールをしっかり説明して、友達と絆を深めてもらいたい」などと、折り合う決定方法を決める（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③態度）。

こうして、**共通の目的をもった他者の経験から来る思いに共感し、折り合う決定方法を考える子ども（Cn）**となる。

働き掛け5

決定したことに対して納得できたかと、なぜそう思うのかとを問う。

発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

みんなで話し合っただけで決めたことに対して納得できたかと、その理由とを問う。子どもは、「ぼくは、「なかよし班で回る」と、いろいろな学年の人と仲良くなれそうだと分かった。それに、自分が賛成していた「自由に回る」も確かに楽しめそうだと分かった。相手の意見のよさも分かったし、自分の意見のよさも分かってもらえたから、納得できた」などと、違いを認め合ったり折り合いを付けたりして課題解決したことを振り返り、発揮した資質・能力を自覚する。

7 本時の構想

(1) 本時のねらい (本時 3 / 5 時間目)

解決策の長所につながる経験について話し合うことを通して、全校の絆を深めるためにはどちらの解決策がよいのか決定方法を考えることができる。

(2) 展 開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 それぞれの短所を出し合うだけでは、目的の達成に近付かないことに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両方のよくないところばかり出ている。 ・どちらも短所ばかりだ。 ・責められているような感じがする。 ・短所ばかりだと納得できない。 ・短所ばかり出し合っても、その方法で全校の絆を深められるかは分からない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>みんなが納得できるように話し合っ て、全校の絆が深まるイベントにしたい。</p> </div>	<p>「自由に回る」「なかよし班で回る」についての短所を提示して、みんなが納得できそうかとその理由とを問う。【働き掛け1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ それぞれの解決策の短所を提示する。 ※ 最初は全て隠しておき、一つずつ読み上げながら見せていく。 ○指示「これを見てください。これは、みんなさんが考えた自由に回るとなかよし班で回るの意見です」 ○発問「これでみんなが納得できそうですか」 ○発問「なぜ、納得できないと思うのですか」
<p>2 課題を解決するための見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、それぞれの長所を出し合いたい。 ・長所を出し合わないで、その方法で本当に全校のみんなの絆が深まるかは分からない。 ・両方の長所が分かれば、自分と反対の方の意見に決まっても、がんばろうって思える。 ・今回は、時間を考えると、前みたいに両方やるという決め方はできないね。両方やるとなったら、自由でもなかよし班でも回るということだから、そんな時間はない。 ・合体案になったらどうなるかな。 ・合体案は、自由でもなかよし班でもどちらでもよいということになるんじゃない。でも、もしそうなったら、なかよし班の中で自由に回りたい人が出てきて、混乱しそう。 ・どちらかに決めなくてはいけないから、両方の長所もしっかり理解して、どちらになっても納得できるようにしたい。 	<p>「自由に回る」「なかよし班で回る」について、どのように話し合えばみんなが納得できそうなのかを問う。【働き掛け2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発問「どのように話し合えば、みんなが納得できそうだと思いますか」 ※ 理由を問い返す。 ※ 決定場面についても考えさせる。
<p>3 目的が達成できそうな解決策の長所について、経験を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に回ると、仲良しの人と回って楽しめそうだけど、違う学年での絆が深まらない。 ・自由に回った方が、知っている人と回れて、前の〇〇祭りみたいに盛り上がる。だから、より楽しくなって仲良くなる。 ・ぼくの班の人たちも、同じクラスの人と回りたいと言っていた。同じクラスの人と回るには、自由がよい。 ・自分だったら、やっぱり回りたい人と自由に回れた方がよい。今までの祭りもそうだったし、本当に楽しかったと思ってもらえなければ、やる意味がない。 ・違う学年の人とも仲良くなれるように、店 	<p>「自由に回る」「なかよし班で回る」のうち、目的を達成できそうな解決策とその理由とを問う。【働き掛け3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 事前にワークシートに記入させておく。 ※ 以下、働き掛け3～4については、子どもによる司会団が中心となって進める。 ○発問「どちらの解決策が、より全校の絆が深まりそうですか」 ○指示「迷っている人から理由を発表してください」 ○指示「自由に回るに賛成の人は、発表してください」 ※ 根拠になる経験がはっきりしない場合は、問い返す。 ※ 異なる立場から、理解できたよさがないか尋ねる。

のルールを工夫すればいい。

- ・なかよし班で回ると、一人ぼっちの人が出なくてよい。〇〇祭りのときは、一人になってしまって困っている人がいた。
- ・私も見たことがある。結局一人になったから、回るのをやめたと言っていた。そうなら、楽しめない。
- ・実は、ぼくの班はアートミュージアムの準備をしていても、話合いで意見が出なくて困っている。でも、運動会のダンスのときは結構楽しそうだった。だから、みんなで楽しいことをして、仲良くなって意見が出るようになってほしい。
- ・それは分かる。私は班長だからいろいろ話し掛けるんだけど、しーんとなっていて困る。仲良くないから思ったことが言えないのだと思う。だから、なかよし班でいろいろなブースを回って、仲良くなってほしい。

★特別活動①

○指示「なかよし班で回るに賛成の人は、発表してください」

※ 根拠になる経験がはっきりしない場合は、問い返す。

※ 異なる立場から、理解できたよさがないか尋ねる。

4 決定方法について話し合う。

- ・司会団としては、多数決で決めようと思います。どちらのよさもしっかり出し合うことができたと考えるからです。今回はどちらもやるには時間がなく、合体案は難しいと考えます。
- ・ぼくも多数決で決めるべきだと思う。元々好きな人と遊べる「自由に回る」だったけど、これからの学校のことを考えると、もっとなかよし班で仲良くなることも大切だということが分かった。つまり、どちらにもちゃんとよさがあるから、多数決でよい。どちらになったとしてもお客さんにはルールをしっかり説明して、友達と絆を深めてもらいたい。
- ・決められないから、全校にアンケートを取りたい。多かった方に決めたい。
- ・でも、自分の希望が通らなかった人たちは、私たちみたいにそれぞれのよさ分かるわけじゃないから、きっと「えーっ」となる。イベントをする前から楽しくない気持ちにさせてしまうんじゃないのかな。
- ・それもあるし、これは6年生が企画するイベントだから、6年生が責任をもって決めるべきだと思う。 ★特別活動①②③

話し合いの決定方法とその理由とを問う。

【働き掛け4】

○発問「今回は、どのように決めたらよいと思いますか」

○指示「ワークシートに自分の考えを書いてください」

※ 司会団から決定方法を提案した後、他の決定方法がないかを尋ねる。

※ 話し合った方法で決定させる。

5 発揮した資質・能力を自覚する。

- ・ぼくは、「なかよし班で回る」と、いろいろな学年の人と仲良くなれそうだとということが分かった。それに、自分が賛成していた「自由に回る」も確かに楽しめそうだと書いてもらえた。相手の意見のよさも分かったし、自分の意見のよさも分かってもらえたから、納得できた。

決定したことに対して納得できたかと、なぜそう思うのかとを問う。 【働き掛け5】

○発問「決まったことに納得できましたか。それは、なぜですか」

※ ワークシートに記述させる。

※ 資質・能力を自覚している記述を発表させる。

(3) 評価

「自由に回る」と「なかよし班で回る」のどちらのよさも理解して、みんなが納得できる根拠と決定方法を考えている（ワークシート記述）。

(例) 多数決で決めるべきだと思う。元々好きな人と遊べる「自由に回る」だったけど、これからの学校のことを考えると、もっとなかよし班で仲良くなることも大切だということが分かった。つまり、どちらにもちゃんとよさがあるから、多数決でよい。どちらになったとしてもお客さんにはルールをしっかり説明して、友達と絆を深めてもらいたい。